ティーチング・ポートフォリオ

日本国際学園大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科

中野 千秋

日本国際学園大学
JAPAN INTERNATIONAL UNIVERSITY

目次

教育の責任 1

1. 何を担当しているのか 1
2. 担当科目 2

教育の理念 3

1. 卒業後幸せな人生を過ごせる学生の育成 3

教育の方法 4

1. 視聴覚教材を取り入れた授業 4
2. グループワークを取り入れた授業 4
3. 「自分自身と向き合う」ことを意識した授業 4
4. トレーニング方式の授業 5
5. **“英語で”経営学を学ぶ授業** 5

教育の成果 および 今後の目標 6

参考資料 6

教育の責任

1. 何を担当しているのか

私の 2024 年度の担当科目は下の「2. 担当科目」一覧の通りである。科目担当教員としての「教育の責任」は、全体のカリキュラム構成の中での各科目の位置づけに基づき、その狙いを明確に意識した授業を行うことにあると考える。

（1）ビジネスマネジメントコース科目

私の 2025 年度の担当科目は下の「2. 担当科目」一覧の通りである。科目担当教員としての「教育の責任」は、全体のカリキュラム構成の中での各科目の位置づけに基づき、その狙いを明確に意識した授業を行うことにあると考える。

（1）ビジネスマネジメントコース科目

「経営戦略②」と「経営哲学」は、それぞれ 2020 年度カリキュラムと 2021・2022 年度カリキュラムの合同授業として開講されている。

「経営財務」と「財務諸表論」も、それぞれ 2020 年度カリキュラムと 2021・2022 年度カリキュラムの合同授業である。

「ビジネスマネジメント演習 C１」と「ビジネスマネジメント演習 C２」（以上、2021・2022 年度カリキュラム）は、カリキュラム上は独立した科目であるが、「ビジネスマネジメント演習 C２」のシラバスで「ビジネスマネジメント演習 C１の履修を前提として授業を進めていく」旨を記し、両科目を通年履修することを学生たちに推奨している。

「経営管理論」と「組織論」は、それぞれ 2022 年度カリキュラムと 2025 年度カリキュラムの合同授業として開講されている。

以上、ビジネスマネジメントコースの科目においては、各科目の２年次生以上の学生向けの専門基礎科目として、それぞれの専門分野における基礎知識を学生たちにしっかり学んでもらい、彼らの知的関心を誘うことを担当教員の責任と考えている。

（2）教養科目・ILA コース

「Social SciencesⅡ」と「Social Sciences B」も、それぞれ 2021 年度カリキュラムと 2022 年度カリキュラムの合同授業である。また「Social SciencesⅢ」と「Social Sciences C」も同様である。これらの科目は、主に ILA コースの学生を対象とするものであるが、総合コースに在籍し英語に興味を持つ学生の履修も受け入れている。

ILA コース科目においては、学生たちに「英語“で”専門科目（当該科目では「経営学」）を学ぶ」ということを実体験してもらうことで、英語と専門知識の橋渡しを提供することが担当教員の責任と考えている。

（3）発展科目

「専門演習ゼミ１」は、ゼミ生を対象とする通年の必修科目で、次年度（４年次）の卒業研究の準備段階として位置づけられる。

「専門演習ゼミ２」では、大学４年間の学びの集大成として卒業レポートを執筆してもらう。学生たちにとって初めての本格的なレポート執筆作業に取り組むことになる。指導教員の役割は、学生たちが自分自身で納得できる卒業レポートを完成できるよう助言・指導その他の支援をして行くことにあると考える。

「卒業研究」は、履修希望学生のみを対象とする科目で、履修学生には「どこに出しても恥ずかしくない卒業論文の執筆」にチャレンジしてもらう。単に学習した内容を報告するだけのレポートと違い、アカデミックな論文執筆のマナーおよびクオリティを備えた卒論の作成を目指す。

2. 担当科目

現在（2025 年度現在）の担当科目とその概略は以下のとおりである。

科目名	対象学年	受講人数※	授業形態	必修選択	科目区分（カリキュラムにおける位置づけ）
経営戦略②･経営哲学	2-4	16	講義	選択	ビシネスマネジメントコース
経営財務･財務諸表論	2-4	14	講義	選択	ビシネスマネジメントコース
ビジネスマネジメント演習 C1	2-4	1	講･演	選択	ビシネスマネジメントコース
ビジネスマネジメント演習 C2	1-4	0	講･演	選択	ビシネスマネジメントコース
経営管理論･組織論	3-4	39	講義	選択	ビシネスマネジメントコース
Social SciencesⅡ･Social Sciences B	1-4	2	講義	選択	教養科目･ILA コース
Social SciencesⅢ･Social Sciences C	1-4	1	講義	選択	教養科目･ILA コース
専門演習ゼミ1	3	9	講･演	必修	専門発展科目
専門演習ゼミ2	4	3	演習	必修	専門発展科目
卒業研究	4	3	演習	必修	専門発展科目

※受講人数は 2025 年度の履修登録者数（春学期：実績、秋学期：予定）

教育の理念

1. 卒業後幸せな人生を過ごせる学生の育成

（1）建学の精神：KVA＝知識・徳性・技術

私は、私立大学の存在意義は、建学の精神もしくは教育理念に基づく教育の実現にあると考えている。日本国際学園大学の建学の精神は「Knowledge（K＝知識の啓発）・Virtue（V＝徳性の涵養）・Art（A＝技術の錬磨）を体得し、良き社会人・家庭人を育成すること」にあるとされている。

中でもとりわけ重視されているのが「V＝徳性の涵養」であり、私はこの理念に大いに共感する。豊かな知識、洗練された技術も、それを正しく使うことができなければ、かえって社会を害するものとなりかねない。自ら体得した知識・技術を、世のため人のために正しく使う判断を行なえる人材を育成することが何よりも重要と考える。また、学生たちには、一定のレベルの知識・徳性・技術を体得するというよりも、その「体得の仕方」を学んでもらいたいと思っている。「釣った魚を与えるのではなく、魚の釣り方を学んでもらう」という考え方である。

こうした建学の理念を実現すべく、カリキュラムや課外活動の中で一致協力して具体的に展開していくことが、その大学に所属する教職員の果たすべき役割と考える。

（2）大学生が身につけるべき素養：自分の頭で考え実行する力

私は、大学教育の意義を、学生たちが「自分の頭で考え、実行する力」を身につけることだと考えている。現実の社会や身の回りに存在するさまざまな問題を発見し、それに関する事実情報を誠実に確認し、その事実情報を総合していくことで問題の解決策を提案・実行することができる。さらに、その結果を真摯に受けとめ、反省・改善していく。そうした論理的思考様式と実行力を養うことにこそ、大学で学ぶ意義がある。

そうした力を身につけることで、学生たちが社会に出てから直面するさまざまな問題について、自ら答えを導き出していくことができると考える。現実の社会において生じる問題に「正解」というものは無い。「正解」は自ら作り出すものと考えるべきである。われわれ教職員の役割は、学生たちが受験勉強に典型的に見られる「正解探し」のメンタリティを脱し、「自らの頭で考え実行する力」を体得できるよう導き支援していくことにあると考える。

（3）個性を生かす教育

上の（1）と（2）で「日本国際学園大学という大学で、どのような人材を育てたいのか」について、私なりの思いを記した。しかし、具体的な教育現場では、どんな学生にも通用する万能薬的教育方法というものは存在しない。同じことを伝えるに際しても、一人ひとりの学生の性格・価値観・その時々の状況などによって異なる方法を用いるべき、と考える。

幸いにも小規模大学である本学では、一人ひとりの学生の顔が見え、その人格を尊重する教育をしやすい環境にある。マンモス大学では限界がある「個性を生かす教育」ができるチャンスが大きいのである。教職員の価値観や考え方を学生に押し付けるのではなく、一人ひとりの学生に寄り添い、学生目線で共に考え、喜びや悩みを共有し、彼らの個性を生かす。そして、一人ひとりの学生の将来の幸せを願う。そうした心を持って、学生たちに向き合っていきたいと思う。

教育の方法

1. 視聴覚教材を取り入れた授業

「経営哲学」では、企業経営もしくは経営戦略における経営理念の重要性を知的に理解するだけでなく、「心で感じること」に重きを置いている。そのため、学生たちの感性・感情に訴えかける方法として、DVD、テレビ番組、その他の動画・画像などを多用する。それによって学生たちには、第２部「企業不祥事」では、企業の不正行為に対する憤りや被害者への憐憫の情、第３部「大企業の経営理念」および第４部「中小企業の経営理念」では優良企業の経営者や経営理念に関する感動・喜び・共感などを共有してもらう。過年度に毎回課題として提出させた感想文を見ると、そうした自分の心の動きと向き合って、自分自身の生き方について深く考えるようになった者もいた。

2. グループワークを取り入れた授業

「専門演習ゼミ１」は、経営学の主要理論と各理論に適切な事例研究をセットで提供することにより、経営の諸理論の現実的な適用方法の仕方を学ぶことを狙いとしている。授業運営の方法としては、教科書の各章を２回に分けて、６サイクル回していく。

演習科目であることを念頭に、各章についての１回目では、事前に予習をして来たことを前提に、当該章の理論と事例分析のポイントを指示し、それに基づいてグループ学習。翌週までにグループ内で各メンバーが担当した部分を統合したグループレジメをパワーポイント作成し、中野に提出。２回目の授業で各グループが発表。グループメンバーの全員が必ず発表することを義務づける。全グループの発表を済ませた上で、中野による講評と補足説明を行ない、該当章の要点を再確認する。

これにより、教科書の内容理解、グループディスカッション、各自担当部分の要点整理、発表用のパワーポイント資料作成、プレゼンテーション等の能力などの面でのトレーニングとする。

3. 「自分自身と向き合う」ことを意識した授業

「経営管理論」および「組織論」では、管理と組織の基礎理論を学んだ上で、組織における個人の行動、組織における集団の管理、全体としての組織管理という３つの局面における「自らの考えや行動」を想定することを通じて、学生たちが徹底的に「自分自身と向き合う」トレーニングを行なう。

学期序盤の「管理と組織の基礎理論」（ガイダンスも含めて４回）は講義中心。学期中盤の「組織における個人の行動」（４回）および「組織における集団の管理」（２回）については、さまざまな手法を用いて演習を行なうことを通じて、学生が徹底的に自分自身と向き合う体験をする。学期終盤の「全体としての組織管理」（３回）は主に理論と合わせて具体的な事例を紹介する講義が中心となる。

4. トレーニング方式の授業

「経営財務」は、財務諸表の基本的な仕組み、および経営分析の基本を理解した上で、実際の企業の財務諸表を読み解くトレーニングを行うことを狙いとしている。

講義では、基本的には教科書を用いて説明していくが、学生の理解を定着させるため、中野自作のごく単純な財務諸表や、穴空き式（虫食い式）の決算書などを用いて演習させるなどして、財務諸表の基本的な仕組みを何度も反復説明していく。

また、財務三表の仕組み、経営分析の基礎に関する学生の理解度を把握・評価するため、中間テストを２回実施する。学生たちの理解度が一定のレベルに達していることを確認した上で、学期後半には、教科書に掲載されている企業の決算書の事例、および中野が準備した実際の企業の財務諸表を用いて、決算書から読み取れる企業経営の実態について議論していく。

期末試験では、「財務諸表の読み方」「経営分析の基本」「実際の企業決算書を読み解く」という大きく３つの分野で、学生の理解度を確認する。

5. “英語で”経営学を学ぶ授業

「Social SciencesⅡ」および「Social Sciences B」（2025 年春学期開講）と「Social SciencesⅢ」および「Social Sciences C」（2025 年秋学期開講予定）では、ビジネス英語を学ぶのではなく、“英語で”経営学を学ぶ授業を行う。世界的に定評のあるマネジメントのテキスト（英語原書）を教材に用い、春学期・秋学期を通じて英書テキスト１冊を読破することを目標とする。英書テキストを用いることで、英語の経営用語および概念を、日本語でも正しく理解できるようになることを狙いとしている。

毎回の授業は次の４つのメニューで運営する。

① 単語テスト（５分程度）：前週に学んだ範囲から重要な経営用語（英語）50 個程度のリストを配布しておき、すべて覚えてくるよう指示。当日の授業の冒頭で、その中から５つの単語を出題し、単語テストを行なう。

② 学生のプレゼンテーション（10 分程度×4 人）：当日の授業で学ぶ章（２回の授業で１章を読み終えるペースで運用）について、前週に学生の分担を決めておき、学生は自分の担当部分について日本語で発表レジメを作成の上、当日ほかの学生にしっかり教科書の内容を伝えることができるように発表する。

③ 講義（30 分程度）：学生の発表だけでは教科書の内容を十分に理解できなかったり、経営用語の訳し方に不備があったりすることが多いので、当日の範囲について中野が内容確認および補足の講義を行なう。

④ 翻訳テスト（10 分程度）：当日学んだ範囲の中から、５～６行程度の英語文章を抜き取って来たものを出題し、授業内で学生に翻訳させる。当日の授業（学生の発表および中野の補足講義）をしっかり聴いておくと、翻訳する上で大きな助けとなる。

教育の成果 および 今後の目標

詳細は「授業改善報告書」を参照。

参考資料

授業で使用した Powerpoint（部外秘）